



## 2021 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [ AICJ 中学・高等学校 ] 担当教諭名 [ 福島 未希 ] ( 2年3・4・5組 95名 )  
 相手国・地域 [ メキシコ ]  
 海外学校名 [ Colegio Inglés Americano ] 担当教諭名 [ Diana Torres ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	アートマイルプロジェクト	40
	道徳	身近なSDGsについて考えてみよう	2

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	ジェンダー差別をなくそう
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	We are the same and differences complement us. 男女のジェンダー格差のを知ってもらいたいことはもちろんのこと、世の中には男女だけでなく、さまざまな性を持った人がいることを、みんなに知ってもらいたい。
 	

### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
成果は日本以外の同世代と交流を持つことができ、学校で習っている「英語」という教科が役に立つということを実感することができたこと。「英語」を実際に使用することが楽しく、今後更に勉強していきたいという意欲を持つことができたこと。また、SDGsをより身近に感じることができ、自分達から課題を発見し、解決しようとする姿勢が生まれた。	「ジェンダー差別」という大きな枠組みではなく、生徒の関心が「LGBTQ」に偏ってしまったこと。そのため、相手国と課題を伝え合う点でズレが生じてしまったところ。また、私自身が「融合」という課題に対して、きちんと自分の中で理解ができておらず、不明瞭のまま生徒に伝えてしまったため、生徒たちの中で混乱が生じてしまったこと。

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
日本の同世代としか接したことがなかったため、メキシコの生徒の大人びた様子を見てびっくりしていた。また、ジェンダー差別について、日本とメキシコで共通することもあれば、異なる点があることを学ぶ事が出来た。	「メキシコだから、先生の反応が遅い」というわけではなく、日本でもメキシコでも、出身国で変わるというよりは、先生次第で変わるんだということがわかった。自分の中で相手を「〇〇出身」という大きな枠組みで見ているという偏見があることに気づき、途中からは相手の先生に対して「メキシコの先生」という態度ではなく、「〇〇先生」という態度で接するようになった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	7月	メキシコ側に自分のこと、日本のことを紹介するプレゼンテーションを作成し、動画を撮って送った。	自分たちで動画を作成するということに苦戦しながらも、本人たちなりに努力し、楽しみながらIT技術を学ぶ事ができた。	総合5
共有 テーマ学習	8月 ～ 10月	夏休みの間に日本におけるジェンダー差別を調べ、班で共有し、英語でのプレゼンテーションを作成した。また、それらを基にメキシコの生徒とお互いの国の課題を伝え合った。	言語の壁が大きく、四苦八苦している様子が見られたが、自分たちの身近な箇所にも課題があることを実感でき、日本とメキシコの相違点を発見することができた。	道徳2 総合15
融合 メッセージ作成	10月	日本、メキシコ側の課題を踏まえて、どのようなことを世界や他の人に伝えたいか考え、発表した。	自分達なりに課題の解決方法を考え、自分の言葉で他の人に伝えることができた。	総合10
創造 壁画制作	11月 12月	班で絵のアイデアを考え、メキシコ側に中間発表を行った。メキシコ側から意見をもらった後、再度考え、グループフォームを用いて日本、メキシコで投票を行い、1枚の絵を選んだ。壁画作成は時間が足りず、また、コロナ禍でオンライン授業になったこともあり、少人数で作成した。	絵の得意、不得意に関わらず、壁画のアイデアを全員が考えることができた。また、メキシコへの壁画のアピールも拙い英語を駆使して発表し、メキシコ側から褒められたことが嬉しそうであった。	総合10
評価 振り返り 自己評価	3月	時間が足りず、行うことができなかった。	特になし。	

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	自国のジェンダー差別、メキシコのジェンダー差別について取り組んだ時に、なぜそのような問題が生じたのか、文化的な側面から考え、他国の文化を自ら比較して考えることができたため。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	ジェンダー差別におけるプレゼンテーションの際に、なぜそのような課題が生まれたのか、解決策はどうすればいいのかということを自分たちなりに考え発表することができた。しかし、アイデアは素晴らしいが客観的に見ることができず、実現不可能で、論理性に欠けていたため。
主体的に考え行動する力	4	壁画のアイデアを日本、メキシコの課題を踏まえたうえで、自分たちで積極的に取り組んで創造することができたため。また、自己紹介の動画作成等に関しても、相手のことを考えて、いかに見やすく、楽しい動画を作成できるかを考え作成することができたため。しかし、色塗り等に関しては、あまり主体的に取り組むことができなかった。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	自分の班内だけで話し合うのではなく、相手国であるメキシコとの意見交換にも積極的に参加し、対話しようとする姿勢が見られたため。しかし、全員で取り組めたわけではないため、評価を「4」にした。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	3	コロナの影響もあってオンライン授業になるなか、班でできる限り集まってプレゼンテーションを作成し、壁画のアイデアを出し合うなど、相手のことを考えて自分たちなりの言葉や方法で表現することができたが、全員が取り組んでいるわけではなく、また、工夫できる箇所も多々見られたため。